



### 総務 常任委員会

## 友好交流都市「茨城町」のまちづくりを視察

今回は、このメンバーで、今年1月7日に友好交流都市協定を結んだ茨城県茨城町を視察しました。

委員長 男 孝和  
副委員長 真 則嘉  
委員 川原 藤 井 田 眞 則 嘉 け 栄  
石笠 齊 筑 島 眞 則 嘉 け 栄



茨城町は、茨城県のほぼ中央に位置し、水戸市の南に隣接する水と緑に囲まれた田園都市です。人口は玉村町より3000人ほど少ない約3万4000人ですが、面積は玉村町の5倍近い約121平方キロメートルの広大な町です。鉄道は通っていませんが、町北部を北関東自動車道が通り、2つのインターチェンジがあります。その周辺を中心に飛躍的な発展が望まれています。

茨城町のまちづくり  
茨城町の東部には、湖面積全国第30位の湖沼があり、全国的にも有名なトマト・しじみの産地でもあります。希少植物・昆虫・鳥類・魚類が多く生息する動植物の宝庫でもあり、平成27年度のラムサール条約登録に向け、取り組みを行っています。湖沼周辺には、自然を生かしたアウトドア・レジャーやキャンプ施設もあり、観光資源にも恵まれています。町の半分が農地で、数々の高品質な農産物を出荷しています。特にメロンは茨城県の銘柄産地に指定されており、他にもイチゴ・サツマイモ・トマト・ニンジンなどが産出され、6次産業化やブランド化を目指しています。

定住促進のため、「桜の郷みなみ台」宅地分譲中



「ポケットファーム」に、地元産の農産物がズラリ



まとめ  
玉村町にとって3番目の友好交流都市となった茨城町は、北関東自動車道を利用すれば2時間程度で行くことができます。長野山ノ内町・昭和村とはまた違った特徴を持つ自治体との交流を始めるに当たり、自治体同士で補完関係を見出し、互恵と互敬の関係になるよう、多くの住民同士の交流を促進したいものです。



### 経済建設 常任委員会

## 農業作物と施設の雪害甚大 再建への道筋、支援は万全に

委員長 備前島久仁子  
副委員長 町田 宗 國 雄 樹 和  
委員 石高 内 橋 茂 宏 石高 橋 端 宏

今回は、このメンバーで、2月の雪害被害に対する支援策について調査しました。



観測史上記録的な積雪量となった2月の大雪により、玉村町の農業はパイプハウス等の農業用施設と農作物を合わせ、2億7000万円を超える甚大な被害となりました。町内事業所・企業については、商工会を通じて被害状況調査を行っています。商工会に加入している事業所以外の被害については、把握できていません。

玉村町の被害状況

被害に対する支援策

農林水産省は、農業用ハウス等の再建・修繕への助成として、国が50%、県や町で40%補助し、農家の負担を10%とする方針を発表しています。さらに撤去費用も、農家の負担がないよう助成するとしています。しかし、被害が広範囲にわたっていることから、農業資材がかなり少なく、円滑な供給が行われていません。早期再建への支援を逐次進めていく方針です。企業については、ほとんどが保険に加入していますが、町としての支援策を検討しているところです。



パイプハウスの崩壊で農業被害は最大に

〈農作物の被害状況〉

	被害戸数	被害金額
キュウリ	15戸	5077万円
トマト	8戸	4606万3000円
ハウスナス	25戸	5729万7000円
イチゴ	3戸	727万6000円
セルリー	2戸	913万5000円
シュンギク	39戸	1419万6000円
合計	92戸	1億8473万7000円

〈農業用施設の被害状況〉

	被害件数(延べ件数)	被害金額
エコノミーハウス	24件	5338万5000円
パイプハウス	181件	3448万8000円
ガラスハウス	1件	29万円
畜産関係(畜舎等)	8件	290万2000円
資材置き場(パイプハウス)	9件	25万5000円
合計	223件	9132万円

まとめ

大雪による被害は、農業をはじめ、企業・事業所・一般住宅等、町内全体に及んでいます。農業・企業に対しては経済産業課、一般住宅や車庫等については生活環境安全課が対応していますが、窓口を一本化し、町全体の被害状況を総括的に把握すべきでなかったかと思われれます。今後、倒壊したハウス等の撤去や廃材の運搬など農業者への支援をしっかりと行い、再建への道筋を全力で示していくよう望みます。